

1. 実況上の着目点

① 台風第6号が非常に強い風を維持し東日本太平洋側に最接近しながら東北東進。風の強い範囲が徐々に拡大し09時から「大型」。台風の東側の下層には相当温位345K以上の暖湿気が70kt前後の極めて強い風速（八丈島高層）で流入し、関東地方沿岸の収束域を中心に非常に激しい雨があったが北東に移動。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の台風第6号は、4日朝までに日本の東で温帯低気圧に変わるが、衰弱は遅く動きが遅くなる。3

日の目先は、東日本太平洋側を中心に土砂災害に厳重に警戒し、低い土地の浸水、河川の増水や氾濫に警戒。落雷、竜巻などの激しい突風に注意。また、東・北日本の太平洋側では4日にかけて、暴風、うねりを伴う高波に警戒。西日本では4日にかけて強風、高波に注意。

② アムール川上流域の寒冷渦の周辺の流れに沿ったトラフが4日にかけて華北から黄海に進み、500hPa 5820m付近の正渦度の強まりに対応して大陸で前線が顕在化し、前線上に発生した低気圧が5日にかけて九州西方から四国沖へ進むが、5日にはトラフが先行し低気圧は衰弱して前線上のキंकに変化する。この前線や低気圧に向かって850hPa345～355Kの暖湿気が流入し大気の状態が不安定となる。下層暖湿気の流入が一時的であるため激しい雨は長続きしないが、西日本では4～5日は土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷、突風に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。台風第6号に伴う大雨により普段より少ない雨量で土砂災害の可能性が高まる所がある点に留意。また、低気圧の北側で東よりの風がやや強まり、波が高くなる所がある。西日本では5日には再び高波に注意。

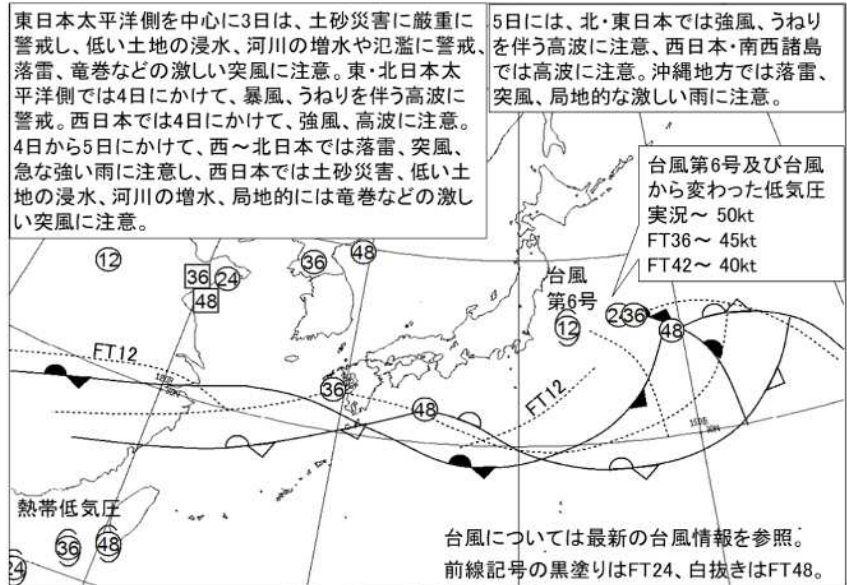
③ 東・北日本の太平洋側では4日にかけて風が弱まった後も台風から変わった低気圧周辺を波源とするうねりが到達し、高波が続く。同太平洋側ではオホーツク海に中心をもつ高気圧からの冷涼な気流の影響をうけるが、その影響が小さい地域では、下層の暖湿気と日中の気温上昇により大気の状態が不安定となり、対流雲が発達する所がある。東・北日本では4～5日は、局地的に落雷、突風、急な強い雨に注意。また、5日には日本海を進む低気圧の影響で東よりの風が強くと吹く所がある。5日は北・東日本で強風に注意、太平洋側では5日も、うねりを伴う高波に注意。

④ 南シナ海を北東進する熱帯低気圧が5日には台湾付近を北上し、その東側を北上する下層暖湿気の影響を受ける所が出てくる。沖縄地方では5日には、落雷、突風、局地的な激しい雨、高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考とする。5日にかけて四国沖や日本海を進む低気圧の発達程度等には不確かさがある。

4. 防災関連事項【量的予報等】 ① 雨量（18時からの24時間）：九州南部・九州北部100mm。 ② 波浪（明日まで）：伊豆諸島8、関東7、東北6、東海5、近畿4、北海道・四国3m。

5. 全般気象解説情報発表の有無 「全般気象解説情報（台風第6号）」を17時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図

台風については最新の台風情報を参照。
前線記号の黒塗りはFT24、白抜きはFT48。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象解説情報等の数値を利用願います。